

みんぱく 私の逸品 タッチカービング(トキ)

標本番号 H0267806
地域 日本
受入年度 2009年

民博 民族文化研究部

ひろせ こうじろう
広瀬浩二郎

バードカービングとは、本物そっくりりに木を彫り彩色した鳥である。リアルさを追求する彫刻技法を競うことから、バードカービングは米国で発展した。もともとはネイティブ・アメリカンたちが狩猟用に使ったおとり(デコイ)にルーツをもち、そこにヨーロッパ系移民の木靴作りの技術などが加わり、アートとしてのバードカービングが生まれた。

日本における野鳥彫刻の第一人者・内山春雄氏は、米国で開かれるバードカービングの世界大会でも活躍する実力の持ち主である。一九九九年から佐渡でトキの人工繁殖が本格的に始まり、二〇〇八年に一〇〇羽を超えたところで、そのうちの一〇羽が試験放鳥された。内山さんが制作したデコイをトキの放鳥の傍に設置し、餌場への誘導を試みる実験がおこなわれている。バードカービングには、群で生活する鳥に安心感を与える効果があるようだ。狩猟目的のデコイが保護活動に転用されるのもおもしろい。

「本物らしさ」にこだわる内山さんは最近、見る鳥でなく、さわる鳥の研究にとり組んでいる。鳥を見ることができない視覚障害者にも野鳥の生態を知ってほしいという願いから、タッチカービングが考案された。鳥の繊細な足やくちばしには、さわっても壊れないようにピアノ線や金属棒を入れる工夫を施した。トキのタッチカービングは、日本の鳥を彫り続ける内山さんの代表作、さわる豊かさや奥深さを来館者に伝える逸品としてみんぱくに所蔵されることになった。

考えてみると、空を飛ぶ鳥には誰もさわることができない。タッチカービングは視覚障害者のみならず、健常者(見常者)にも鳥の存在を身近に感じてもらうための資料なのである。優しくさわってトキの生命の尊さを理解する。ゆっくりさわってトキの大きさや体の細部を確認する。「さわるトキ」は、博物館ならではの「ものとの対話」の楽しさを教えてくれる。

